

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(7月15日～7月21日)

2024年7月26日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ロシアの無人機が立て続けにベラルーシ領空内に侵入し、一機が墜落(7月16日)
- バルト三国が、ベラルーシで登録された乗用車の入国禁止措置を導入(7月15日、17日)
- 欧州35か国に対する査証免除制度の導入(7月17日)
- ドイツ国籍の男性に対する死刑判決(7月19日)
- ルカシェンコ大統領就任30周年(7月20日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●大統領就任30周年

・7月20日、ルカシェンコ大統領は、大統領就任30周年を迎えた。ミンスク市及びヴィテプスク市では、政権支持者による大規模祝賀イベントが開催された。

・同日、プーチン露大統領は、「ベラルーシの最近の歴史は、近代的な国家機関の建設と社会的・経済的分野での大きな成功に象徴されるように、貴大統領の名前と切っても切れない関係にある。ベラルーシとロシアの同胞の利益のために、建設的で友好的な対話と緊密な共同作業を喜んで継続する」との祝辞を发出。(7月20日 大統領府、国営ベルタ通信)

【外交】

●ルィジェンコフ外相による、ポーランドとの国境をめぐる状況に関する発言

ルィジェンコフ外相は以下のとおり発言。

・(ポーランドとの国境をめぐる状況につき)我々是对話する用意があり、大統領も対話に前向きである。しかし、どうやらポーランド側はこの問題を解決することにあまり興味がないようだ。おそらく、国境での緊張をエスカレートさせ続けるつもりだろう。

・ベラルーシにとって、ポーランドが国境問題に関して政治的な要求をする状況は容認できない。

・秋頃に法執行機関や国際機関が参加する大規模なブリーフィングが開催され、不法移民の問題や両国の国境の状況について詳しく検討する予定。

・ベラルーシ政府は常に善隣関係の構築と国境を越えた協力に尽力してきたが、ポーランド側は様々な口

実で我々の提案の実行を回避している。

(7月15日 国営ベルタ通信)

●バルト三国が、ベラルーシで登録された乗用車の入国禁止措置を導入

(1)ラトビア

・7月15日、ラトビア国税庁(SRS)は、同国が、7月16日よりベラルーシで登録された乗用車の入国を禁止する旨発表。同庁の指示に従わない場合、車両は没収される可能性がある。

グラス・ベラルーシ外務省報道官の反応

・同措置は一般市民にとって痛手。我々は同措置を非人間的で非人道的なものと考えている。同措置にはいかなる実質的な意味も法的根拠もなく、ラトビアとベラルーシの人道的・文化的関係を意図的に複雑にし、不信の雰囲気強めるだろう。

・ベラルーシ側には、ラトビア国民に対して対称的な措置をとる意図はない。我々は、諸隣国との交流の発展にはオープンであり、関心を持っている。

民主勢力の反応

・「統一移行内閣」及びラトウシコ元文化大臣は、ラトビアによるベラルーシで登録された乗用車の同国入国禁止措置は理にかなっていないものと主張。

・双方は、ルカシェンコ政権の行為がラトビア及びEUに安全保障上の脅威をもたらしたものと認識を示し、同政権による制裁回避やウクライナ侵略戦争の継続への貢献を阻止するための制限措置は支持。

・「統一移行内閣」は、同措置につきラトビア、リトアニア、ポーランドの関係機関と協議を実施。ラトウシコ元

文化大臣は、ラトビア政府に対し今次措置の見直しを要求するとともに、ポーランド政府及びリトアニア政府に対しても、ルカシェンコ政権ではなく第一にベラルーシ社会に影響を与えるような措置を控えるよう主張。

(2)リトアニア

・リトアニア税関は、7月18日より、ベラルーシで登録された乗用車の同国入国を禁止。

・例外として、乗用車が販売目的でなく、所有者がEUへの入国を許可する査証またはリトアニアの滞在許可証を所持する場合は8月16日までリトアニアに入国可能。

・ベラルーシで登録された乗用車は、2025年1月18日までにEU域内から撤去しなければならない。

(3)エストニア

・7月17日、エストニア外務省は、ベラルーシのナンバープレートをつけた車両は、所有者や使用者のエストニアやEUでの滞在理由にかかわらず、エストニアへの入国を許可しない旨発表。同禁止措置が発効する日付は明らかにされていない。

・ツァフクナ・エストニア外相は、「同禁止措置は、ベラルーシ政権が、ロシアのウクライナ侵略の実行を直接助け、それを支持している以上、行うべき唯一の正しいことである」と発言した上で、エストニア政府は、弾圧のために国外退去を余儀なくされているベラルーシの市民を支援し続ける旨付言。

・同国外務省によると、エストニアでベラルーシのナンバープレートをつけている車両は、道路交通法に従い、状況に応じて5～12日以内に再登録されなければならない。さらに、車両は6か月以内に税関に申告し、輸入関税を支払うか、関税の一部または全額免除を届け出なければならない。

(7月15日 国営ベルタ通信、ベラルーシ外務省、「ポジルク」、7月17日「ゼルカロ(鏡)」、「ポジルク」)

●その他の制裁措置

・リトアニア税関は、8月2日以降段階的に、ベラルーシの運送会社に対し、EU域内への貨物の輸送禁止(通過も不可)を導入することを発表。同措置は、トレーラーヘッドが登録された国に関係なく、トレーラー及びセミトレーラーがベラルーシで登録されている場合

に適用される。さらに、同措置は、EU域内の運送会社であっても、所有権の25%以上がベラルーシ人もしくはベラルーシの団体に属する場合にも適用。

(7月15日「ゼルカロ」)

●欧州35か国に対する査証免除制度の導入

・ベラルーシは、7月19日午前8時より、欧州35か国に対して査証免除制度を導入。なお、同措置は本年12月31日まで有効。

・同措置の対象国の国民は、陸路及び空路を通じてベラルーシに出入国でき、30日までベラルーシに滞在可能。

(7月17日 外務省)

【内政】

●7月19日現在の政治犯の数は1,378人

(7月19日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ロシアの無人機が立て続けにベラルーシ領空内に侵入し、一機が墜落

・7月16日未明、ロシアの自爆攻撃型の無人航空機(UAV)1機がチョルノービリ原発付近からベラルーシ領空内に侵入。約50分にわたり、少なくとも60km飛行した後、ウクライナ領空へと離脱。ベラルーシ空軍・防空軍機発進の情報なし。

・8:40ごろ、ゴメリ州ナロヴリャ地区から別のUAV1機が侵入し北上。当該UAVはその後、モギリョフ州西部をジグザグに飛行してモギリョフ市上空に到達。ベラルーシ領内を300km以上にわたって飛行。今回はベラルーシ空軍・防空軍機が発進。同UAVは、ゴメリ州オクチャブリ地区に墜落。墜落しながら爆発したことから、弾頭を搭載し、ウクライナ領を攻撃する用途のものであったことが伺える。

(7月16日「ベラルスキ・ハユン」)

●2021年8月から2024年3月にかけて、EU諸国との国境で126人が死亡

・ポーランド「Wyborcza」紙によれば、2021年8月から2024年3月にかけて、EU諸国とベラルーシの国境で

126 人の移民が死亡しており、死因としては森での長期滞在による低体温症や衰弱、交通事故、川での溺死等が挙げられる。全ての遺体の身元が特定されているわけではなく、死亡者の親族が見つからないケースも多い。また、少なくとも 9 人の女性が、不法越境を試みて死産したとも報告されている。

(7 月 19 日「ゼルカロ」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(7 月 15 日～7 月 21 日)

- ・リトアニア国境警備局は少なくとも 46 人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は少なくとも 162 人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも 75 人を阻止。

(7 月 16 日～7 月 22 日「ポジルク」)

【治安・犯罪】

●ドイツ国籍の男性に対する死刑判決

・6 月末、ミンスク地方裁判所にて、ドイツ国籍の男性リコ・クリーガー氏が、諜報活動やテロ行為等を理由に死刑判決を受けていたことが判明。

・ドイツ外務省は、独「ドイチェ・ヴェレ」の取材に対し、ドイツ外務省及び在ベラルーシ・ドイツ大使館はクリーガー氏に領事サービスを提供し、同人の利益のためにベラルーシ当局と緊密に協力していると述べ、ドイツはいかなる場合にも死刑を拒否する旨回答。

・グラス・ベラルーシ外務省報道官は、ベラルーシ・ドイツ両国の外務省が本件に関し協議を行っている旨発言。

(7 月 19 日「ゼルカロ」)

【経済】

●フライドバイは、ミンスクドバイ間の就航便数を増便

・フライドバイは新たに、火曜、金曜、日曜の夜間にミンスクドバイ便を就航。

・同決定により、ミンスクドバイ間の就航便数は週 10 便となる。

(7 月 17 日「ゼルカロ」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・7 月 15 日、ポーランドを訪問し、内務・行政省の高官らと会談。国境における状況や、ポーランドでのベラルーシ人の滞在許可等の問題につき協議。

・18 日、英国で行われた欧州政治共同体サミットに出席。ドイツ、ウクライナ、フランス、英国、アイルランド、ラトビア、ポーランド、フィンランド、イタリア、スペイン、モルドバ、リトアニア、エストニア、クロアチア、デンマーク、オランダ、ギリシャ、スロベニア、コソボ、チェコ、アルメニア、アイスランド各国の首脳らとそれぞれ会談。各会談で、安全保障、欧州議会選挙、国境の状況やベラルーシ社会及びメディアの支援等につき協議。

・21 日、バイデン米国大統領が大統領選挙からの撤退を表明したことに関連し、「X」にて同大統領に対し、「ベラルーシ国民は、貴大統領が我々の大義を勝ち取るために行った全てのことに深く感謝する」とコメント。

(7 月 22 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)